



1.4

- [Cisco Spaces の概要 \(1 ページ\)](#)
- [リリース 1.4 の新機能 \(2 ページ\)](#)
- [リリース 1.4 の新機能 \(4 ページ\)](#)
- [リリース 1.4 の機能強化 \(7 ページ\)](#)
- [不具合 \(8 ページ\)](#)

Cisco Spaces の概要

Cisco Spaces は、物理的なビジネス拠点で訪問者とつながり、連携できるようにするマルチチャネル エンゲージメント プラットフォームです。小売、製造、サービス業、医療、教育、金融など、さまざまな業種のビジネスを対象としています。Cisco Spaces は、施設内の資産を監視および管理するためのソリューションも提供します。Cisco Spaces は、これらの情報を実行に移すためのさまざまなツールキット、アプリ、および API を提供します。

このリリースの主な機能は次のとおりです。

- ロケーションアクセスのレポートを提供する新しいアプリ、Location Analytics (Beta)。
- アクセスコードを使用してインターネット プロビジョニングを管理するための新機能、[Access Code Manager] ユーザーロール。
- 利用可能なライセンスに基づいてグループ化されたアプリ。
- ワイヤレスネットワークを設定するために、新しい Cisco Spaces ユーザーを [Setup] ウィンドウにリダイレクトできるようにするためのプロビジョニング。
- Cisco Spaces ダッシュボードバナーに、ライセンスタイプと Cisco ロゴが表示されます。
- デジタル化統計のツールヒント。
- サイドメニューバーの展開/折りたたみ機能。
- OpenRoaming アプリのアイコンによるサンプルデータの表示
- DCloud アプリケーションでシングルサインオンに対応。
- Meraki API 3.0 に対応。

- キャプティブポータル認証で、送信される SMS に追加情報を追加できるように対応。
- 郵便番号と CPF コードではデフォルトの国コードに対応。
- 指紋認証でのセキュリティ強化。
- キャプチャされたデバイスの詳細に基づくデバイス分類。

リリース 1.4 の新機能

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードに、次の新機能が追加されました。

アクセスコードマネージャ

Cisco Spaces では、新しいユーザーロールである **Access Code Manager** を提供するようになりました。このユーザーロールにより、アクセスコードを使用してビジネス構内のインターネットプロビジョニングを制御できます。さまざまなロケーション用のアクセスコードを作成し、そのアクセスコードを使用してこれらのロケーションのインターネットアクセスを制限できます。つまり、顧客は、そのロケーション用に設定されたアクセスコードを入力した後でのみインターネットにアクセスできます。

Cisco Spaces では、作成したアクセスコードを顧客と共有することができます。アクセスコードの有効期間を指定できます。アクセスコードに単一のコード値を持たせる、またはコード値を毎週や毎月変更するように設定できます。アクセスコードを使用して、顧客がインターネットにアクセスできる時間を定義できます。Cisco Spaces では、アクセスコードのダウンロードおよびアップロードの帯域幅制限など、帯域幅制限を設定することもできます。

1つのロケーションに複数のアクセスコードを定義できます。たとえば、プラチナメンバーにのみ高速インターネットを提供する場合、最大帯域幅を持つアクセスコードを作成し、限られた帯域幅を持つアクセスコードを別に作成できます。その後、顧客のタイプに基づいてアクセスコードを共有できます。

Location Analytics (Beta)

Cisco Spaces は、新しいアプリである **Location Analytics** を提供するようになりました。このアプリを使用すると、ロケーション訪問者のレポートを表示できます。このレポートでは、従業員の訪問もカウントされます。デフォルトでは、ルートロケーションのレポートが表示されず。デフォルトの日付範囲は、2019年1月1日から今日までです。2019年1月1日より前のデータのレポートを生成することはできません。レポートでは、次の情報を表示できます。

- **[Visitors]** : 指定の期間におけるフィルタ処理されたロケーションへの訪問者の総数を表示します。**[New Visits]** と **[Repeat Visitors]** の数とパーセンテージが別個に表示されます。また、指定の期間における各日の訪問者数を示すグラフも表示されます。

- [Visits] : 指定の期間におけるフィルタ処理されたロケーションへの訪問の総数を表示します。[New Visits] と [Repeat Visits] の数とパーセンテージが別個に表示されます。また、指定の期間における各日の訪問数を示すグラフも表示されます。
- [Dwell Time] : 指定された期間中にフィルタ処理されたロケーションでの平均滞在時間を表示します。[New Visits] と [Repeat Visits] の平均滞在時間とパーセンテージが別個に表示されます。訪問者の平均滞在時間を日ごとに表示するグラフも表示されます。
- 滞在時間の内訳 : フィルタ処理されたロケーションと期間における、さまざまな滞在時間範囲内での合計訪問数を表示します。たとえば、0～5分のカウントは、フィルタ処理されたロケーションで0～5分間継続した訪問の合計数を表します。

ロケーション、日付、SSID でレポートをフィルタリングできます。

さまざまなフィルタを備えたウィジェットを使用して、カスタムレポートを作成できます。ACT (高度) サブスクリプションのお客様は、ウィジェットですべてのフィルタ (ロケーション、SSID、時間範囲、および訪問範囲) を適用できます。(ベース) サブスクリプションのお客様は、場所、SSID、および訪問範囲フィルタの適用が制限されていることに留意してください。

ライセンスに基づいて表示されるアプリ

[Home] ウィンドウで、Cisco Spaces アプリは、利用可能なライセンスに基づいてグループ化されます。

アプリは次のようにグループ化されます。

- [See (Base)] : アプリの行動メトリクス、OpenRoaming、およびロケーション分析は、このライセンスタイプの下にリストされます
- [ACT (Advanced)] : キャプティブポータル、エンゲージメント、ロケーションペルソナ、Operational Insights、BLE Manager、Location SDK、および検出と位置特定アプリがこのライセンスタイプの下にリストされています。
- [EXTEND] : パートナーアプリは、このライセンスタイプの下にリストされます



(注) すべてのタイプのライセンスの場合、すべてのアプリが [Home] ウィンドウに一覧表示されますが、アカウントのライセンスタイプに基づいてのみ有効になります。

高度なライセンスタイプの場合、下位のライセンスタイプにグループ化されたアプリを使用できます。

新しい Cisco Spaces アカウントの別のバナー

ワイヤレスネットワークが設定されていない新しい Cisco Spaces アカウントの場合、ダッシュボードのホームページバナーが表示され、ダッシュボードの上部に次のメッセージが表示されます。

「まだワイヤレスネットワークに接続されていません。ここをクリックしてワイヤレスネットワークを接続しますCisco Spaces。」

[Click Here] リンクをクリックすると、ワイヤレスネットワークを設定できる [Setup] ウィンドウが表示されます。

Cisco Spaces ホームページのライセンスアイコン

Cisco Spaces アカウントのライセンスタイプがホームページに表示されるようになりました。Cisco Spaces ダッシュボードにログインすると、ウィンドウの左上にある Cisco ロゴの隣にライセンスタイプが表示されます。

デジタル化統計のツールチップ

Cisco Spaces ダッシュボードのホームページに表示されるデジタル化統計値のツールチップが提供されます。

サイドメニューバーの展開/折りたたみ機能

Cisco Spaces ダッシュボードでは、サイドメニューバーを折りたたんで幅広いビューを表示できるようになりました。これは、キャプティブポータルなどのアプリ内のものを含む、すべてのサイドメニューバーに適用されます。3本の平行線の付いた新しいアイコンがサイドメニューバーの上に表示され、それを使用して展開または折りたたむことができます。デフォルトでは、サイドメニューバーは展開された状態になります。

OpenRoaming アプリ

OpenRoaming アイコンは、OpenRoaming アプリに関する簡単なアイデアを提供する静的データを表示できるようになりました。

SSO ログインのサポート

Cisco Spaces では、Cisco dCloud ユーザーのシングルサインオンをサポートするようになりました。dCloudアプリケーションにすでにログインしている場合は、再度ログインしなくても、Cisco Spaces ダッシュボードに直接アクセスできます。

リリース 1.4 の新機能

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードに、次の新機能が追加されました。

アクセスコードマネージャ

Cisco Spaces では、新しいユーザーロールである Access Code Manager を提供するようになりました。このユーザーロールにより、アクセスコードを使用してビジネス構内のインターネット

プロビジョニングを制御できます。さまざまなロケーション用のアクセスコードを作成し、そのアクセスコードを使用してこれらのロケーションのインターネットアクセスを制限できます。つまり、顧客は、そのロケーション用に設定されたアクセスコードを入力した後のみインターネットにアクセスできます。

Cisco Spaces では、作成したアクセスコードを顧客と共有することができます。アクセスコードの有効期間を指定できます。アクセスコードに単一のコード値を持たせる、またはコード値を毎週や毎月変更するように設定できます。アクセスコードを使用して、顧客がインターネットにアクセスできる時間を定義できます。Cisco Spaces では、アクセスコードのダウンロードおよびアップロードの帯域幅制限など、帯域幅制限を設定することもできます。

1つのロケーションに複数のアクセスコードを定義できます。たとえば、プラチナメンバーにのみ高速インターネットを提供する場合、最大帯域幅を持つアクセスコードを作成し、限られた帯域幅を持つアクセスコードを別に作成できます。その後、顧客のタイプに基づいてアクセスコードを共有できます。

Location Analytics (Beta)

Cisco Spaces は、新しいアプリである **Location Analytics** を提供するようになりました。このアプリを使用すると、ロケーション訪問者のレポートを表示できます。このレポートでは、従業員の訪問もカウントされます。デフォルトでは、ルートロケーションのレポートが表示されます。デフォルトの日付範囲は、2019年1月1日から今日までです。2019年1月1日より前のデータのレポートを生成することはできません。レポートでは、次の情報を表示できます。

- **[Visitors]** : 指定の期間におけるフィルタ処理されたロケーションへの訪問者の総数を表示します。**[New Visits]** と **[Repeat Visitors]** の数とパーセンテージが別個に表示されます。また、指定の期間における各日の訪問者数を示すグラフも表示されます。
- **[Visits]** : 指定の期間におけるフィルタ処理されたロケーションへの訪問の総数を表示します。**[New Visits]** と **[Repeat Visits]** の数とパーセンテージが別個に表示されます。また、指定の期間における各日の訪問数を示すグラフも表示されます。
- **[Dwell Time]** : 指定された期間中にフィルタ処理されたロケーションでの平均滞在時間を表示します。**[New Visits]** と **[Repeat Visits]** の平均滞在時間とパーセンテージが別個に表示されます。訪問者の平均滞在時間を日ごとに表示するグラフも表示されます。
- **滞在時間の内訳** : フィルタ処理されたロケーションと期間における、さまざまな滞在時間範囲内での合計訪問数を表示します。たとえば、0～5分のカウントは、フィルタ処理されたロケーションで0～5分間継続した訪問の合計数を表します。

ロケーション、日付、SSID でレポートをフィルタリングできます。

さまざまなフィルタを備えたウィジェットを使用して、カスタムレポートを作成できます。ACT (高度) サブスクリプションのお客様は、ウィジェットですべてのフィルタ (ロケーション、SSID、時間範囲、および訪問範囲) を適用できます。(ベース) サブスクリプションのお客様は、場所、SSID、および訪問範囲フィルタの適用が制限されていることに留意してください。

ライセンスに基づいて表示されるアプリ

[Home] ウィンドウで、Cisco Spaces アプリは、利用可能なライセンスに基づいてグループ化されます。

アプリは次のようにグループ化されます。

- [See (Base)] : アプリの行動メトリクス、OpenRoaming、およびロケーション分析は、このライセンスタイプの下にリストされます
- [ACT (Advanced)] : キャプティブポータル、エンゲージメント、ロケーションペルソナ、Operational Insights、BLE Manager、Location SDK、および検出と位置特定アプリがこのライセンスタイプの下にリストされています。
- [EXTEND] : パートナーアプリは、このライセンスタイプの下にリストされます



(注) すべてのタイプのライセンスの場合、すべてのアプリが [Home] ウィンドウに一覧表示されますが、アカウントのライセンスタイプに基づいてのみ有効になります。

高度なライセンスタイプの場合、下位のライセンスタイプにグループ化されたアプリを使用できます。

新しい Cisco Spaces アカウントの別のバナー

ワイヤレスネットワークが設定されていない新しい Cisco Spaces アカウントの場合、ダッシュボードのホームページバナーが表示され、ダッシュボードの上部に次のメッセージが表示されます。

「まだワイヤレスネットワークに接続されていません。ここをクリックしてワイヤレスネットワークを接続しますCisco Spaces。」

[Click Here] リンクをクリックすると、ワイヤレスネットワークを設定できる [Setup] ウィンドウが表示されます。

Cisco Spaces ホームページのライセンスアイコン

Cisco Spaces アカウントのライセンスタイプがホームページに表示されるようになりました。Cisco Spaces ダッシュボードにログインすると、ウィンドウの左上にある Cisco ロゴの隣にライセンスタイプが表示されます。

デジタル化統計のツールチップ

Cisco Spaces ダッシュボードのホームページに表示されるデジタル化統計値のツールチップが提供されます。

サイドメニューバーの展開/折りたたみ機能

Cisco Spaces ダッシュボードでは、サイドメニューバーを折りたたんで幅広いビューを表示できるようになりました。これは、キャプティブポータルなどのアプリ内のものを含む、すべてのサイドメニューバーに適用されます。3本の平行線の付いた新しいアイコンがサイドメニューバーの上に表示され、それを使用して展開または折りたたむことができます。デフォルトでは、サイドメニューバーは展開された状態になります。

OpenRoaming アプリ

OpenRoaming アイコンは、OpenRoaming アプリに関する簡単なアイデアを提供する静的データを表示できるようになりました。

SSO ログインのサポート

Cisco Spaces では、Cisco dCloud ユーザーのシングルサインオンをサポートできるようになりました。dCloud アプリケーションにすでにログインしている場合は、再度ログインしなくても、Cisco Spaces ダッシュボードに直接アクセスできます。

Cisco Spaces ランタイム

Cisco Spaces ランタイムに、次の新機能が追加されました。

SMS への追加情報の追加のサポート

キャプティブポータル認証のプロセスの一部として送信されるソフト SMS およびハード SMS では、SMS ゲートウェイに渡す必要のある追加情報を含めることができます。たとえば、英語以外の言語で SMS を顧客に送信する場合、SMS ゲートウェイに送信される SMS にその情報を含めることができるようになりました。

リリース 1.4 の機能強化

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードに次の変更が加えられました。

Meraki API 3.0 サポート ロケーション レシーバ

Cisco Spaces は、Meraki API バージョン 3.0 でのデータの受信と処理をサポートするようになりました。

Cisco Spaces ランタイム

Cisco Spaces ランタイムに次の変更が加えられました。

CPF と郵便番号のデフォルトの国サポート

データキャプチャフォームのフィールドとして郵便番号または CPF が追加されると、Cisco Spaces は、その国のロケールに固有の入力フィールドのプレースホルダーと形式を表示しようとします。顧客は、ポータル構成時に郵便番号/CPF のデフォルトの国を選択できるため、国の検出に失敗した場合、選択した国に基づいてフィールドの形式とプレースホルダーが表示されます。



(注) 現在、郵便番号または CPF のデフォルトの国選択は、ダッシュボードから行うことはできません。同じ設定については、Cisco Spaces サポートにお問い合わせください。CPF はブラジルのみ表示されます。

指紋認証のセキュリティ強化

Soft SMS 認証の一環として実行される指紋認証は、高度なエンコード技術に移行することにより、より安全になりました。

デバイスの分類

Cisco Spaces は、キャプチャされたデバイスの詳細に基づいてデバイスを分類するように拡張されました。デバイス OS、OS バージョン、モデル、デバイス タイプ、製造元などの情報は、サブスクライバーの詳細の一部としてキャプチャされます。

不具合

不具合では、Cisco Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- 識別子：各不具合には、一意の識別子 (ID) が割り当てられます。識別子は CSCxxNNNNN というパターンで、*x* は任意の文字 (a ~ z)、*N* は任意の数字 (0 ~ 9) です。これらの ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center (TAC) エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。
- 説明：不具合が発生したときに観察された内容の説明。

ここでは、次の内容について説明します。

シスコバグ検索ツール

シスコバグ検索ツール (BST) は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理するシスコバグ追跡システムへのゲートウェイです。BST は、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。

未解決のバグ：リリース 1.4

表 1: 未解決のバグ

CDETS ID 番号	説明
CSCvp46851	散布図にカーソルを置くと、ツールチップに複数のポインターがあった。
CSCvo00172	累積統計：ロケーション数と AP 数が一致しない
CSCvo19097	ロケーションを削除した後、訪問者、Locupdate、および訪問データが N/A と表示される

修正されたバグ：リリース 1.4

このリリースで修正されたバグはありません。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。